

# Newsletter

No.2 2022年5月発行

日本糖尿病教育・看護学会 国際交流委員会

学会員の皆様

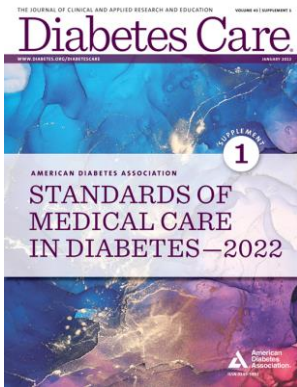
こんにちは、国際交流委員会です。ニュースレター第2号をお届けいたします。

新型コロナウイルスの蔓延が続く中、学会員の皆様においては、新しいことにチャレンジしたり、様々に工夫をされ、新しい自分スタイルの生活を創造されているのではないのでしょうか。国際交流委員会も皆様の糖尿病看護の知識や技術の向上のために色々なことにチャレンジし、国際的な観点から情報発信していきたいと思えます。

## ■■■今回のトピックス■■■

1. デジタル技術を活用した療養支援—アメリカ糖尿病学会より—
2. インスリン治療に抵抗を感じる2型糖尿病患者への支援—英語論文のご紹介—
3. 国際交流委員会の活動報告

### 1. デジタル技術を活用した療養支援—アメリカ糖尿病学会より—



アメリカ糖尿病学会のオフィシャル誌 Diabetes Care の45巻別冊(2022年1月)に、Standards of Medical Care in Diabetes—2022(以下、SMCDと略します)が掲載されました。SMCDは、毎年更新され年初の別冊で公表されるのが恒例になっています。SMCDは、分類・診断、発症・合併症予防、行動変容、薬物療法、心血管疾患等、17の章で構成されており、かつ全て無料で閲覧でき、アメリカで糖尿病ケアに携わる医療者の指針となっています(American Diabetes Association, 2022)。

2021→2022も、様々な修正・追加がなされました。1例として、行動変容について記載された“Section 5. Facilitating Behavior Change and Well-being to Improve Health Outcomes”の修正点を紹介します。セルフマネジメント教育と支援に関する推奨として、デジタル技術を用いた介入が有効な方法であることが追記されました。セルフマネジメント教育と支援は、その内容は定まっていますが、それをいかに実現可能かつ持続可能な方法で対象者に届けるかが課題でしたが、今回の改訂によって、デジタル技術の活用がその解決策として推奨されたこととなります。デジタル技術では、モバイルアプリなどのデジタルツールを活用しています。その活用により患者と医療者との双方向のコミュニケーションやフィードバックができ、HbA1cの改善に効果があるとされています。この推奨に関連したシステマティックレビュー(Gershkowitz BD, 2021)では、デジタル技術を活用した指導が、従来の対面指導と同等のアウトカムを達成していることが示されています。日本においても、デジタル技術を活用した指導を推進することが、増え続ける糖尿病患者と予備群へ支援を効率的に届けるための有効な方策となりそうです。

American Diabetes Association. Standards of Medical Care in Diabetes—2022. [https://diabetesjournals.org/care/issue/45/Supplement\\_1](https://diabetesjournals.org/care/issue/45/Supplement_1)

Gershkowitz BD, Hillert CJ, Crotty BH. Digital Coaching Strategies to Facilitate Behavioral

## 2. インスリン治療に抵抗を感じる 2 型糖尿病患者への支援—英語論文のご紹介—

日本の研究グループは、日本人 6 名の 2 型糖尿病患者へのインタビューにより、インスリン治療に抵抗を感じる 2 型糖尿病患者がインスリン治療を始める要因を明らかにしています。始める要因は、1 つは、インスリン治療は適切な治療であるという支援者からのアドバイス、2 つ目は、支援者が行うインスリンの使い方のデモンストレーション、3 つ目は、あきらめ、降伏、インスリンを受け入れる、であったそうです。これらの結果からもインスリン治療を開始する患者の支援において、日頃より看護師が行っている支援が重要であることが示唆されたと考えます。

看護師は、日頃からインスリン治療を行う患者の思いを聴き、具体的なインスリン注射の使い方を説明し、生活の中でスムーズにインスリン注射を行えるように支援しています。これからもインスリン治療を行う患者の生活が充実するよう支援を行っていきましょう。

Kentaro Okazaki , Noriyuki Takahashi, Tomotaka Shingaki, Magaly Perez-Nieves , Heather Stuckey. Key factors for overcoming psychological insulin resistance: A qualitative study in Japanese people with type 2 diabetes. 2022, Primary Care

## 3. 国際交流委員会 活動報告

2021 年 9 月、第 26 回学術集会において、国際交流委員会は、日本を含めたアジアの糖尿病患者の増加を鑑み、「アジアの糖尿病医療・看護に関する現状調査報告」を行いました。約 50 名の方々の参加を得て、アジアの糖尿病医療・看護の実態を共有させていただきました。調査の対象とした国・地域は 8 つの国・地域で、日本、大韓民国、タイ王国、台湾、中華人民共和国、香港、インドネシア、ベトナムです。ベトナムやインドネシアは人口千人あたりの医師数と看護師数が日本と比較しても少なく、医療提供体制が整っていませんでした。さらに、妊娠糖尿病の有病率が高い国、1 型糖尿病患者数の多い国が認められ、若年層への支援の充実が課題として見出されました。

現状調査の詳細を知りたい方は、日本糖尿病教育・看護学会ホームページ「書籍・調査研究関連」をご覧ください。

第 27 回学術集会では、「アジア各国・地域における食文化と食事療法支援の実際」をテーマに、インドネシア、中華人民共和国、大韓民国、タイ王国より講師をお招きし、各国の食文化を含めた食事療法支援についてオンラインでご講演いただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。